

# 旧中山家住宅

建物等について 明治後期の地図 今現在のようす 中山説太郎とは更新 説太郎の著述等 再生に向かって更新 林之助のカトレヤ

## ■再生に向かって

●旧中山家住宅再生委員会は、来春(2023年(令和5)年/2～3月)にお披露目を予定しています。それに向けて準備をはじめました(2022/9/27)

2018(平成30)年11月、本住宅は、国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。再生委員会は、登録に先立ってホームページの制作を開始していました。その後、傷んだ建造物の修復を行いながら、2019(平成31)年3月、この「旧中山家住宅」サイトをキックオフしました。2020(令和2)年3月予定で、近隣住民へのお披露目式(仮題:旧中山家住宅登録有形文化財プレート設置式および見学会)を企画準備中に、新型コロナウイルス感染症が流行し、その感染対策のため、やむなく式は中止しました。その後、感染症は収まるどころか、変異株の流行にシフトし、予断を許さない状況が続いています。それでも、この2022(令和4)年には、政府から感染対策と経済活動を両立させることが可能との判断が示されています。そこで、来春にはお披露目式を実施できるかもしれないとの気運が生まれ、お披露目式(仮題:中山邸シンポジウム)の実施に向けて、その企画準備会が2022(令和4)年8月再スタートしました。

ところで、この「再生に向けて」ページ以外は、キックオフからわずかな修正はありましたが、ほとんど3年半更新されていません。歴史的事実の列挙なので当然ですが、新たな発見や、大きな間違いがなかったのです。新たなお披露目式(仮題:中山邸シンポジウム)に向けて、あらためて「中山説太郎とは」ページを再構成することになり、過日、歴史的事実を精査してみたところです。証拠がないため断言できなかったことを勇気をもって断定し、説太郎ご本人の記憶違いによる矛盾は、いくつかの文書の比較から修正するなどして、[中山説太郎とは](#)を更新しました。「幕末から明治維新への激動をオー太郎がどのように見ていたか」の記述に加筆し、「中山家三代について」としてまとめました。オー太郎→説太郎→林之助と続く中山家三代の眼に日本や世界はどのように映っていたのでしょうか？

●倉敷ケーブルテレビKCTニュース2022年1月25日17:00～17:30(初出)に保存活動が紹介されました(2022/1/30)

・・・倉敷・連島出身の実業家邸宅 旧中山家住宅 保存修理進む・・・

明治の終わりから昭和の中頃にかけてめざましく活動した倉敷市連島町出身の実業家・中山説太郎が住んでいた豪邸を保存修理する取り組みが進んでいます。大正時代に建てられた主屋や蔵など5つの建物が国の登録有形文化財に指定されていて、関係者は、中山説太郎の功績と